

令和2年度 第1回 瑞浪市障害者計画等推進委員会 会議録

■日 時：令和2年8月5日（水） 午後1時30分～午後2時40分

■場 所：瑞浪市役所 本庁舎2階 大会議室

■出席委員：隅田敏博、辻田奈美子、成瀬みか、度會眞由美、伊藤矛、加藤健史、松井周平、加藤智大、木村泰宏（会長）、伊藤明芳（副会長）、保母朋子〔名簿順、敬称略〕

■欠席委員：山田隆司、江口研、篠田征子〔名簿順、敬称略〕

■事務局：瑞浪市民生部

加藤誠二（民生部長）、兼松美昭（社会福祉課長）、藤本敏子（子育て支援課長）、山路雅子（社会福祉課課長補佐兼障がい福祉係長）、伊東範明（子育て支援課課長補佐兼子育て支援係）、水野彰春（社会福祉課障がい福祉係主査）

■次 第：

1. 開 会
2. 委嘱状交付
3. 市長あいさつ
4. 出席委員数の報告
5. 委員自己紹介
6. 会長・副会長の選出
7. 会長あいさつ
8. 議事
 - （1）会議の運営および傍聴
 - （2）第6期瑞浪市障害福祉計画・第2期瑞浪市障害児福祉計画の概要
 - （3）計画策定の基礎資料
 - （4）前回計画の進捗状況
 - （5）今後のスケジュール
 - （6）その他
9. 閉 会

■内 容：

1. 開会

【事務局】開会あいさつ

2. 委嘱状交付 机上に配布

3. 市長あいさつ

【市長】皆さま、こんにちは。日中の何かとお忙しい時間帯、そしてコロナ禍という大変厳しい状況の中、委員の皆さまのご出席を賜りまして誠にありがとうございます。約1年間にわたり審議をしていただくということになりますので、それぞれのお立場で忌憚のないご意見を頂き、素晴らしい計画が策定できるようお力添えを頂ければと思っておりますのでよろしくお願い致します。

岐阜県のみならず全国各地で、第1波を超える第2波の新型コロナウイルスの感染が拡大している状況です。瑞浪市では感染者ゼロが続いていましたが、7月に初めて感染者が発生しました。やはり例外はないということで、ウイルスは我々の身の回りに潜んでいるということが如実に現れてきたのだと思います。治療薬が承認され、ワクチンが承認されるまでは、恐らくこの新型コロナウイルスと一緒に生活をしていかないといけないのではと改めて覚悟しているところです。どうか皆さま方もそれぞれのお立場で、ご自身がお気を付けいた

だくのは当然ですが、周りの方々にも新しい生活様式を徹底して守るということと呼びかけただけであれば大変ありがたいと思っております。

本日の委員会ですが、ご審議いただきますのは「第6期障害福祉計画」および「第2期障害児福祉計画」です。これらの計画は、障害者総合支援法等に基づき、市町村に策定が義務付けられているもので、今後の障害福祉サービスの提供体制を計画的に確保するための具体的な目標を定めるというのが役割です。策定にあたっては、障害者基本法に基づく「障害者計画」との調和を保つことが求められており、瑞浪市障害者計画の理念「障がいのある人をはじめ誰もが地域でともに生き、ともに支え、ともに参画できる『共生社会』の実現」を目指していく必要があります。

今般の新型コロナウイルス感染症の拡大は、さまざまな面で障がいのある方の生活に大きな影響を与えており、改めて各種障害福祉サービスの必要性、重要性が問われているものと考えております。計画策定にあたりましては、利用者ニーズをしっかりと把握し、委員の皆さまをはじめ、幅広い方々からのご意見を賜りながら、障がいのある方とご家族が地域で安心して生活できるよう、基盤の整備を進めてまいりたいと考えております。その指針となるのがこの2つの計画です。

瑞浪市は第6次総合計画の達成に向けて取り組んでいるところですが、その目指す目標都市像は「幸せ実感都市 みずなみ」であり、瑞浪で暮らし、育ち、学び、働いている方々が人生のさまざまな場面で、瑞浪市民で幸せだったなと思っただけのような瑞浪市にしていきたいと、大きな目標を掲げております。障がいのある方も、健常者の皆さまも、一緒になって幸せを実感していただけるということが大前提でございますので、しっかりとした計画が策定できるようお力添えの程よろしく申し上げます。

4. 出席委員数の報告

【事務局】（委員14名中11名出席で過半数出席により会議が成立していることを報告）

5. 委員自己紹介

6. 会長・副会長の選出

会長：木村泰宏委員 副会長：伊藤明芳委員

7. 会長あいさつ

【会長】 重大な任をいただきまして少し緊張しております。多治見市、土岐市、瑞浪市を中心に仕事をさせていただいていますが、瑞浪市にも数多くの利用者がいらっしゃいます。私自身もこのまちが大好きで、住みやすいまちだと思っています。障がいを持った方にとっても住みやすいまちであるよう、そして我々もいつ障がい者になってもおかしくないということを思いながら、良い計画ができればと思っております。会議の回数はそれほど多くありませんが、皆さま方の活発なご意見で良いものを作り上げていきたいと思っております。本日はよろしく申し上げます。

（市長退席）

8. 議事

（1）会議の運営および傍聴資料

【会長（以下、議長）】 それでは議事に入ります。（1）会議の運営および傍聴資料について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】（資料1-1、資料1-2の説明）

【議長】（会議を公開で行うこと、本日傍聴希望者がいないことを確認）

（２）第６期瑞浪市障害福祉計画・第２期瑞浪市障害児福祉計画の概要

【議長】続けて、議事（２）について事務局より説明をお願いします。

【事務局】（現行計画の概要版、資料２の説明）

【議長】「障害者計画」と「障害福祉計画」、福祉の計画がすごくわかりにくいのですが、今回我々が携わっていくのは「障害福祉計画」でよろしいですか。

【事務局】「障害福祉計画」と「障害児福祉計画」です。

【議長】「障害者計画」は既に出来上がっているということで、この理念等を基に今回我々は意見を言っておいていくということになります。ここまでで何かご質問がありますか。概要説明ですので、このまま次へ進んでいきたいと思えます。

【事務局】できれば、計画の基本的視点というところで、今の新型コロナウイルスの影響について、お話をお聞かせいただくとありがたいなと思っております。どんな影響を身近なところで受けられたのか、どういうことが課題になっているか等です。

【議長】それではまず、入所施設の方はいかがですか。

【委員】春先にはある程度落ち着くかなとちょっと楽観視していた部分がありました。国が早くから非常事態宣言を打って、人の往来がなくなり、実際に陽性者も少なくなったのでもう大丈夫かなと思ったら、新しい生活様式が始まった途端にまた陽性者が出てしまいました。

どこの所属でも同じだと思うのですが、まずは職員がウイルスを持ち込まないということが前提なのと、当方は入所施設であり非常に重度の障がいの方がいますので、そちらに罹患しないこと。これが終わりなき道で、なかなか職員の統率が難しいところです。

福祉施設の中でやれることは、利用者が外に出ないこと、通所の利用者には十分な説明をしながら進めていくことです。国は、例えば在宅の受け入れは積極的にやっていただいて、施設の中で入所者と在宅者の導線を分けるようにということですが、それぞれの施設の特性があったりハード面の整備が追い付いていなかったりしますので、その状況を説明し、休止はできませんけどお互い慎重に配慮しましょうということになります。インフルエンザに比べると、福祉施設で全国的に蔓延しているわけではない状況ですが、実際罹った時のリスクが見えないので、危機感をずっと維持しなければならない。入所の利用者からは、国の動きを見て、結局我々だけが閉じ込めかという意見が出たりもします。その辺の終わりなき道という部分をこれからどうしていくのか。独自の取り組みとして、例えばスーパー等には行かない、ドライブ的な外出をして利用者さんに少しストレス発散していただくといったことをやり始めた矢先に、また岐阜県内でこれだけ陽性者が出て、岐阜県知事もまた独自の非常事態宣言を打ちました。そうすると、法人としてどうしていくかという宿題が出てまたストップするということの繰り返しです。

やるべきことは、インフルエンザやノロウイルスといった感染症に対するリスクや予防の徹底等です。これを我々福祉職専門の中でやるしかない。ご承知のとおり、手洗いやうがい、マスクの着用、プライベートでは人ごみを避けるといったことにはなりますが、それぞれ職員にもプライベートや家庭があったりしますし、それがいつまで続くのかと少し気が緩んだりしているところがあるので、職員のストレス、入所者・通所の利用者のストレスをどうしていくか、通所事業との兼ね合いをどうしていくかと非常に悩みながら、４か月が経過したという状況です。

【議長】通所施設の立場からはいかがでしょう。

【委員】瑞浪市、恵那市、中津川市と３市に渡って利用者がおられるのですが、他の施設が通所の受け入れをストップしたために、当所に通う利用者が増えてきて、少人数ではありますが新型コロナウイルスが怖いと通えなくなった利用者も実際にいらっしゃいます。

それから利用者の仕事ですが、どうしても販売先が縮小せざるを得なくて、対面販売になりますし、販売と土日のバザーが縮小されています。実質的に売り上げが減ると利用者の給料にも響いてくるので、その部分がちょっと怖いところです。

【議長】保護者の立場からはいかがですか。

【委員】息子が特別支援学校の小学5年生で、3月から学校が休みになって3か月、6月から少しずつ始まるようになってきたのですが、放課後等デイサービスを利用せずにいました。新型コロナウイルスの影響でいろいろな子たちが集まることで、もちろん感染対策は徹底してとは言われていましたけれど、子どもが“コロナはちょっと怖い”と。“感染したら嫌だよ”という感じのことは家でも言って聞かせていたので、怖いという気持ちになってしまっていて、放課後等デイサービスには行かずにいました。我が家は家でずっと過ごしていたけれど、放課後等デイサービスも非常事態宣言が出てから休みになったところもあったようで、他のお母さんたちから大変だったという話は聞いていました。

【議長】このような形で順次聞きながら進めたいと思います。次の議題に移っていきますけれど、新型コロナウイルス関連も含めて皆さんの意見を伺っていききたいと思います。

(3) 計画策定の基礎資料

【議長】議事(3)について事務局から説明をお願いします。

【事務局】(資料2、資料3、資料4-1、資料4-3の説明)

【議長】ここまでの説明で質問等ありましたらお願いします。

【委員】資料3の1ページ「第4次瑞浪市障害者計画の事業進捗評価(令和元年度実績)」の基本目標1の表「(2)福祉教育の推進」で、評価がAとEに極端にわかれています。どういうところがAでどういうところがEの評価になったのか、わかれば教えてください。

【事務局】A評価となっているのは、例えば小中学校における福祉教育の推進として、高齢者体験、障がい者疑似体験等の理解を図る学習を行ったこと、特別支援学校と普通学級の居住地交流等も毎年実施しているということです。それから、社会福祉課では障がい者が地域住民と高齢者・子どもと交流する場、地域の中での交流を確保するという目標が定めてあるのですが、障がいのある方が参加しやすい環境づくりについて、どういった取り組みをしていったらいいかというところで、なかなか進められていないのでE評価をつけております。

【議長】ありがとうございます。ここままで他にご意見があればお願いします。

【委員】資料2の9ページに示されている瑞浪市の障がい者数ですが、こういった資料が正直言いまして今までは手に入らないといいますが、閲覧する機会も無かったのですが、平成30年度の例をとると障害者手帳の所持者は1,395人になっていますが、身体障害者福祉協会の会員数は、平成30年度で180名足らずです。所持者全体の13パーセント弱の方が会員として登録・加入していただいているのですが、割合からみても我々が一番苦慮しているのは会員数の減少です。会員は高齢者がほとんどなので、やはり60、70歳代の方は数からいって非常に少ないです。役員等はここ4、5年ずっと同じ方がおやりになっていて、中にはもう80歳過ぎの方もたくさんいらっしゃいます。もう卒業したい、もう辞めさせてほしい、そういったことを言われる方が多いです。実際、強制はできないので、そのあとの補充がきかないというのが現状です。今日も実は理事会・役員会を午前中にやりましたが、月に1回、障がいをお持ちの方で、自分で車に乗れて、出て来られる方に限定されるので、出席していただける方を探してはいるのですが、見つけ出すにもなかなか困難な状態で、何かいい方法があれば皆さんお手伝い願いたいなと思っているのが現実です。協会としても、後継者として50歳代、60歳代、そういった年代の方がもっと会へ加入していただきたいというのが切実なる願いです。

【議長】家族会等いろいろな団体がありますが、高齢化しているなというイメージがあります。

身体障害者福祉協会の方とは関わりがありますけれど、積極的に会の運営をやっているのが80歳代の方々です。ただ、全体的に会の繋がりというものが気薄化してきているのは事実なので、今回、共生社会ということがうたわれていますけど、その点は今後の議題として考えていければいいなと思います。

(4) 前回計画の進捗状況

【議長】続いて議事(4)について、事務局よりお願いします

【事務局】(資料2、資料3、資料4-1、資料4-3の説明)

【議長】ありがとうございました。ではここまでの総括という形でも結構ですので、ご意見をまだ伺っていない方にお越ししたいと思います。いかがでしょうか。

【委員】私には4人子どもがいるのですが、長男、次男、三男の3人とも子ども発達支援センター「ぼけっと」を利用させてもらっています。もし利用していなかったらきっと子どものいろいろな悩みを自分ひとりで抱えて、今のような明るい子育てはできなかったのでは利用して良かったと思っています。

「ぼけっと」の放課後等デイサービスを小学3年生の子どもが利用していますが、3年生までしか利用できないので、その後の相談が実は悩みです。私の場合は他の子どももいるので、「ぼけっと」を利用する機会はあるのですが、繋がりといいますか、相談先がもっと身近にあると親としては安心できると思います。

先程のコロナ禍のことですが、私は子どもが4人いるので、3か月も休校になって正直すごく辛かったです。公園にも行くのは控えて、家の前で子どものいるご近所さんと一緒に遊んだりしていました。放課後等デイサービス「ぼけっと」も利用できなくなって、民間の放課後等デイサービスを利用していたのですが、そこも利用を見合わせていました。今は第2波が来ていて、今後はインフルエンザもありますし、もっと厳しくなってくるのかなと思っています。子どもの居場所を家庭だけではなく学校等でも工夫してもらえると親としてはありがたいです。

【委員】息子は24歳で、「ぼけっと」でずっと福祉のお世話になって、高校を卒業して就労継続支援A型事業所に行き、2年足らずで一般就労できました。3年少し働いたのですが続けられなくなったので、就労移行支援を経て、現在は瑞浪市にある就労継続支援A型事業所にこの5月からお世話になっています。本人的には今すごくやる気になっていて、やっぱり目指すは一般就労だと頑張っております。ですが、常に親とどこかへ行ったり何かをやったりという親と一緒に生活で、余暇活動がなかなか見つけられない状況です。一般就労していた時は一般の方とのお付き合いがあって、カラオケに行ったり、ボーリングや買い物に行ったりしていました。そういう面ではすごく今孤独を感じているようなので、相談に乗ってやりながらも、こういうコロナ禍で外出も思うようにできないと自分で思い込んで、自分の中でだんだん萎縮してしまっている部分が多いので、なんとか余暇活動を見つけてやれないかなと思っています。

【委員】私の子どもは現在高校3年生で、特別支援学校に行っています。新型コロナウイルスの非常事態宣言が出て、遠慮していただけますかと言われたので、遠慮してはいたのですが、放課後等デイサービスに来てもいいよと言ってもらえて、朝から喜んで行っていました。そういう所があって良かったとすごく思っています。

支援学校のお友達を見ていると、瑞浪市の中に重度の方が行ける放課後等デイサービスがないので、そういうのを誘致していただけるといいなと思います。

【委員】当センターは、一般の会社への就労の支援と生活の支援をしています。福祉サービスの利用については、一般の就職が難しかった人が一度訓練を受けに戻って、そこから再度頑張るといって利用していただいています。

コロナ禍の影響ということをお話させていただきたいと思います。東濃圏域を支援しているセンターですので、瑞浪市に特化した内容ではないですが、この圏域全体としましては、一般の派遣社員等は、会社が立ち回らなくなって切られていくという流れにある状況です。しかし、障がい者は障がい者の雇用率という数字で守られているなど改めて感じています。私たちが支援している中では、特段クビになったということはありません。ただ、仕事量がないので、4月、5月の出勤がなかったりとか、1ヶ月に3日しか仕事なかったりとか、会社によってさまざまです。休業補償はあるのですが、そういったことで家にいましたという方が多くいらっしゃいました。

先日、障がい者の雇用率がまた上がるという記事が新聞に載っていました。コロナ禍の影響で倒産する会社もあるのですが、障がい者の雇用数というのは上がっていると書かれました。雇用率を達成しないと罰則金を払わなくてはいけないので、やはり会社としてもそれであれば雇用するという流れがあるのかなと思っております。

【委員】 当校は小学部、中学部、高等部と3つ学部がありますが、在籍数は例年200人前後で推移しています。今年度は全部で210人の児童・生徒が在籍しておりまして、瑞浪市からは43名登校していただいているのですが、その数も大体変わらずに推移してきています。ただ、地域の小中学校では少子化で教室が空いてきたという話を聞きますけれど、支援学校の場合はそのようなことはなく、毎年教室が足りないという状況が続いています。恵那と可茂にも新しく高等部が設置されたのでその時に一旦減ったのですが、また増えてきているので、障がいをお持ちの方は決して減っていないといえますか、どちらかという増加傾向で、先ほどの手帳所持者の話にもあった通りだと思いました。

新型コロナウイルスの関係でも、先程お話があったように、学校も3月から休校になりました。6月から再開にはなりましたが、分散登校や時間を区切る等いろいろな工夫をしながら、また医療的ケアのあるお子さんに関しては日にちを遅らせてスタートする等、7月に入ってもまだ元通りではなく、やっと戻ってきたかなという感じでしたが、今週から夏休みに入りまして、なかなか例年通りの学校の様子には程遠くなっています。せっかく1年生で入学していただいても運動会がなかったり、遠足がなかったりということで、なかなかいつも通りの学校の運営ができていないのもどかしいなというところです。

感染拡大の対策には、保護者の協力が得られて、どこまでが十分な対策なのかはわかりませんが、今のところ支援学校では感染が聞かれないです。当校は8月24日から2学期が始まりますので、また意識を強く持って対策をしながら、学校生活を送っていただけるようにしていきたいと思っています。

【委員】 説明していただいた資料についてお聞きしたいのですが、22ページの一番下の表の医療型短期入所という項目があると思うのですが、現計画の中では、受け入れ施設を県や近隣自治体と連携して確保に努めますという記載になっているのですが、その後、受け入れていただける場所というのはあるのでしょうか。

【事務局】 今のところありません。ちょうど昨年度、東濃厚生病院の短期入所の指定期間が切れるタイミングだったのですが、指定の更新を受けられましたので、やっていただけるという方向性はあると思っております。

【委員】 それから資料2の30ページ、目標として国の指針に基づいて、令和2年度末までに児童発達支援センターを圏域に1箇所設置する、という目標が掲げてあったのですが、これまでの取組みの状況が見えないです。「ぼけっと」の充実で進めて行くという方向性についてまとめていただいているのですが、圏域で1箇所設置という以上、瑞浪市単独でできることではない目標になっているので、他の市町村との連携がどうされていたのかなというのが質問です。

【事務局】 30ページの進捗状況の2段落目、最後から3行あたりの「圏域設置という目標値につ

いて」という部分になりますが、東濃5市でいろいろと協議することが非常に多い中で進めることもできたのですが、圏域となると例えば瑞浪市のお子さんは中津川市まで相談に行くのか、多治見市まで相談に行くのかということになります。やはり子どもさんの療育の施設というのは、市内、身近なところにある方が望ましいのではないかと思います。実際に児童発達支援センターを名乗れる施設は、中津川市に1箇所あると聞いていますが、そこを使ってくださいという方向性よりは、今「ぼけっと」が十分に機能を満たしているのも、そちらが発達支援センターと名乗れるよう基準の緩和を求めていく方向に労力を使う方が良いのではないかと思います。

【委員】その辺りを、進捗状況というところでもう少しまとめていただけるといいのかなと思いました。

【事務局】わかりました。

(5) 今後のスケジュール

【議長】それでは、議事(5)について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】(今後のスケジュールについて説明)

(6) その他

【議長】(その他の議事がないことを事務局に確認)

今日は資料説明が中心でした。皆さまのご意見を意見聴取用紙に書いて出していただければ、次回の会議の時にはより充実した話し合いになるのではないかと思います。

私が高校生か中学生の時は瑞浪市の人口は45,000人だったという記憶があるのですが、現在では37,000人で、20年ぐらいで8,000人減っています。どんどん新しい家が建っていて、人口は増えているのではないかと思います。もちろんあるのですが、実際は年々、5年で1,000~2,000人ぐらいは減っているので、瑞浪市で箱(施設)を建ててということとはなかなか難しいかもしれません。

ですから、今あるものをもっと使いやすくとか、医療的ケアが必要なお子さんを受け入れる放課後等デイサービスは土岐市にありますし、将来、県病院で短期入所を行うという話もありますので、そこを瑞浪市民であっても気軽に使えるような形にしていくこともひとつです。今だと春日井市や小牧市まで行かないと医療的ケアが必要な方は短期入所が使えないというのも事実です。東濃厚生病院もあるのでもう少し使いやすくなるように、お金はかかるし自己負担もあってなかなか大変だという意見もいろいろありましたので、そういうこともここで話し合えたらいいと思っています。

9. 閉 会

【事務局】(民生部長あいさつ)